

岐阜大学国際交流ニューズレター

Newsletter of International Exchange, Gifu University

No.35 2010年2月



▲上海オフィス (中国)

2009年5月11日岐阜大学中国同窓会事務局を務めている于平(ユーピン)氏の協力により「岐阜大学上海オフィス」中国上海市に開所。



◀高麗大学 (韓国)

2010年1月15日学術交流協定締結。高麗大学は大韓民国ソウル市にあり、1905年に設立されたトップクラスの大学である。自然科学、工学、医学、芸術、文化、経済等のあらゆる学問分野の研究教育が盛んであり、世界各地から学生が集う。(写真提供:高麗大学)



▲ベンハー大学 (エジプト)

2009年3月18日学術交流協定締結。2005年にザガジク大学ベンハー校から改組独立した大学で、歴史は比較的浅いが、現在エジプト第3の規模を誇る有力大学である。



▲ダッカオフィス (バングラデシュ)

2009年8月7日バングラデシュ人民共和国ダッカ市内で通信、教育事業等を行っているBJ International Co. (Pvt) Ltd.の協力により、岐阜大学ダッカオフィス開所。



岐阜大学国際戦略本部長
(国際交流担当副学長)

土肥 修 司

岐阜大学は、学内の各部署と有機的に連携した国際交流を支援するため、2009年5月に「国際戦略本部」を設置した。大学の国際化を推進する中核的な組織として、全学的な連携に配慮し、国際化の企画・立案・調査分析および評価点検に関する業務を行い、国際化を展開していくためである。さらに、国策である「留学生30万人計画」を戦略的に推進するためであり、本学を国内のみならず、国際的にも存在感のある大学とするためであり、グローバル化された世界の大学と競争・協調し、そして教育・研究活動を通して国際的視野で教育・研究のできる優れた人材の養成を戦略的に支援するためである。

文部科学省は日本学術振興会の国際事業部を中心に、国際社会のグローバル化に対応すべく、事業目的に応じた各大学からの国際展開するさまざまな優れた試みや大学の国際化の推進を支援している。2005年から展開している大学国際戦略本部強化事業もその一つであり、更に2009年から開始された「国際化拠点整備事業(グローバル30)」もその一つである。前者では20大学・機関が事業を展開している。後者は2009年に13大学の事業が国際化拠点として採択された。そして、残りの17国際化拠点大学は、昨年夏の政権の交代もあって、今年度の公募は見送られ、2011年度に再開される見通しである。

国際戦略本部の開設の9ヶ月の歩み

国際戦略本部(Gifu University Academic Office for Globalization)では、岐阜大学の国際交流をどう進め、国際競争力を強化し、国際的評価を高めるかも明確な戦略が必要と考えている。グローバル30で要求されている留学生(国際学生)2400人への目標は無理としても、学部学生・大学院生を合わせて7000名の本学は、留学生を現在の留学生360名(5%強)から10%にするためには、受け入れをどう計画するか、本学の規模(森学長の云う“身の丈”)に合った国際化を推進し、国際的存在感をどう強化していくか、本学の日本人学生に役に立つ国際化をどう推進していくかを国際教育部会、国際研究部会、国際広報部会の3部会で一元的に議論している。昨年5月には岐阜大学上海オフィスを設置し、研究者と本学入学を希望する学生へワンストップサービスも開始すべく調整を進めている。2か所目の海外オフィス(バングラデシュのダッカオフィス、GU Dhaka Office)開設準備も進んでいる。第2期中期目標の遂行のためは勿論のこと、全学的な連携のもとに「国際化拠点整備事業(グローバル30)」への再申請に向け準備を進めている。

本学の国際化を強化するには、3部会が連携して、優れた留学生の確保と学生の外国留学の促進、国際協定大学との研究連携、そして国際情報の発信を活発にしていかなければならない。国際的な教育や学術研究の質の向上を図りながら、留学生・学生や若手研究者の国際通用性を高めていくことが、グローバル時代の本学の足腰を強くする近道であると考えている。

外国人留学生からのメッセージ



教育学研究科英語教育専攻2年

鎖 柱 (中国)

日本から見た内モンゴルのモンゴル人

私は中国内モンゴルからの私費留学生です。日本に留学して引き続き勉強していくことが私の人生に大きな意味を持つと考えています。内モンゴルという地域から、自由な日本に来て、もう一度内モンゴルを眺めると、多くのことが明らかになります。これは日本の学校教育と関係があると考えています。日本の大学の図書館は素晴らしく、所蔵している書籍、資料などが豊富で、各種のサービスも充実しています。また、自分の好きなことならなんでも勉強できるシステムがあります。自由な研究、議論ができる学習環境ですね。

一方、中国の教育では、モンゴル人の自己民族を理解するための歴史、文化に関する教育は行っていない。また、近代化が進む中、モンゴルの伝統文化に対して、遅れた文化との批判も多く、内モンゴルのモンゴル人も自分自身に対して多くの悩みをかかえていると思います。簡単な例をあ



げると、日本人に何人と聞かれると？パスポートは中国人、民族はモンゴル人だからどう答えるかも問題になるし、モンゴル人と答えるとモンゴル国か？とまた聞かれる。こういうことが内モンゴルのモンゴル人にはよくあると思います。

私もそういう悩みの中で生きていたモンゴル人の一人であり、日本に留学することをきっかけにその問題を正しく認識するようになりました。これが日本の学校の自由な教育、先生たちの丁寧な指導、また先輩たちとの議論などにより私自身は大きく成長したと思っています。現在、日本では近代化についても多くの批判がなされており、モンゴル伝統の遊牧文化、生活様式などを再認識する必要があると思います。これらのことを、私たちはどうやって自文化の誇りを見つめ、新しい価値観を創造するかにあると思います。これらの考え方は、すべて日本に留学して多くの方々にお世話になったお陰だと思っています。この場を借りて、今まで大変お世話になった方々に心より感謝を申し上げますと同時に、これからも日本とモンゴルの文化交流などの友好関係に貢献したいと思っています。これからもどうぞよろしくお願ひいたします。

外国人留学生からのメッセージ



日本語・日本文化研修留学生

丁 充 智 (韓国)

よろしくね~日本!

2009年10月2日。岐大に初めて来た日で、心配が半分、期待が半分でわくわくしたことを思い出します。私が韓国で通っている木浦大学は、2008年に岐阜大学と学術交流協定を結び、2009年に初めて交換留学生を受け入れました。それゆえ岐阜大学に関する情報が全然ない、岐阜ということも留学するすぐ前に知り、全く未知なところでした。

ところで、岐大に来てからもう4ヶ月くらい経ちました。その間、数え切れないほど新しい経験をしました。生まれて初めて乗った自転車、友達と話しながら外で食べたお弁当、留学ラブの友達と一緒に担いだお神輿、先日行ってきたスキー研修まで。スキー場の風景は実に壮観でした。川端康成の小説『雪国』の背景もこのように雪で覆われ、雄大な寂寞が流れるところではなかったかなという思いがしました。

しかし最も印象深いのは正月に初めて行った初詣です。京都で有名な清水寺に行きました。人がすごく多いことを予想して、朝早めに出発しました。予想どおりに人が多かったです。どこに行っても人で押すな押すなの状況だったし、初詣

をしようとする人々で神社の前は混雑でした。足の踏むところもなかったです。順番がきて、初詣をしようと思うのに、鈴を何回鳴らすべきかを知らなかったです。先に立った人たちもまちまちに鳴らしたから私も心行くまで鳴らし、家族たちの健康とこれからの留学生活の無事を祈りました。御神籤もしてみました。3人の友達と一緒にしましたが、私だけ凶が出ました。少し失望しましたが、凶の次は大吉だから、良くなることを願って木に結びました。いろいろな所で着物やハカマを着る人々が目立ち、正月らしく思いました。

日本の正月は多くの人が出歩いて活気があふれていました。どこに行ってみても並んでいる人々の姿があり、御神籤をした後のいろいろな表情、神社の前に並んでいる露店の商人たちがお客さんを引こうとする声等が楽しく感じました。日本の歴史がそのまま生きていると同時に現在が流れている京都で、新しい年を迎えられたということが感激でした。

残りの留学期間に日本の多くの所を歩き回りたいと思います。そしていろいろな経験ができることを期待しています。どうぞよろしく日本!!



交換留学体験記



大学院教育学研究科 美術教育専攻1年

Lund Universityに 留学中

平工 春子

北欧授業スタイル

北欧の家具を始め建築、デザインに以前から興味を持っていたので、それらが生まれた場所で本物に触れながら学べるルンド大学での交換留学はとても有意義です。こちらでは学科を超えて工学部建築学科に所属し、建築と家具の授業を受けています。

ある授業では、スカンディナヴィア諸国の首都のStudy Tripがありました。ストックホルムに朝10時、翌日はノルウェーのオスロに朝10時集合と告げられるのみの日本では考えられないスタイルでした。移動距離はどちらへも約500kmです。飛行機で向かう人もいれば、電車や夜行バスで向かうなど様々でした。

別の授業の課題は家具製作で、使用する材料は「ジャンクな物」です。私は牛乳パックを選択して椅子を作りました。スポンサーになってくれるメーカーを探し、材料の提供を受けました。日本で学んでき

たことをベースに試行錯誤し、周囲の助けを得ながら、毎週2、3人の教授とディスカッションして製作しました。最初は「君の英語はわからない」と言われ落ち込むこともありましたが、言葉では説明しきれないところを資料等で補助しながら考えを伝えて行きました。最後まで苦労しましたが、発表後にはクラスのメンバーの拍手と教授からの”Very Good”の評価をいただき、その達成感は言葉では言い表せません。

未だに言葉、文化の違いでは苦労していますが、それ以上に得るものが大きいです。後半も北欧ならではの授業が盛りだくさんで楽しみです。



建築学科の授業でのStudy Trip



1/5スケールで作った椅子



“JUNK DESIRABLE”の最後のプレゼンテーション風景



寮の同じフロアの仲間と

交換留学体験記



教育学部 英語教育講座 3年

West Virginia Universityに留学中

小島 秀祐

いい意味で、適当

私がWest Virginiaに来てから早5か月が経ちました。来たばかりの頃は本当に英語が分からず、毎日枕を濡らしましたが、最近ではたくさんの友達に囲まれ、充実した日々を送っております。勉強についても、岐阜大学の名に恥じぬよう日々精進しております。

アメリカはおもしろい国です。バスは絶対時間通りに来ませんし、ゴミ収集車は深夜に騒音をたてて私の睡眠を妨害しますし、おばあちゃんは胃のことなどお構いなしにコーラとピザを食べますし、誰もトイレを流しません。しかし、私はなぜかこの“適当



近くの川から見えるWVUの風景



ライトアップされたwood burn hall



Halloweenでアメリカ人よりはしゃぐ留学生

country” Americaを嫌いになれません。それはいい意味で適当だからかもしれません。アメリカ人も他国への軍事介入や戦争について強く批判こそしますが、自国に誇りを持っているようです。

この半年間語りきれないほどの貴重な経験が得られたのは、大きな理解を頂いている異准教授をはじめ、家族、友人、留学生支援室の方々、教育学部事務係の方々、たくさんの方に支えられたおかげです。また、岐阜大学国際交流事業という形で、毎月5万円も奨学金をいただけているのも大きな支えです。この場を借りてお礼申し上げます。本当にありがとうございます。岐阜大学のさらなる国際事業の発展を願って留学体験記を終わります。

誕生日パーティーからクリーム戦争へ▶



岐阜大学流域水環境リーダー育成プログラムについて



岐阜大学流域圏科学研究センター教授
プログラムリーダー

李 富生

岐阜大学は、平成21年度科学技術振興調整費「戦略的環境リーダー育成拠点形成」に応募し、プログラム「岐阜大学流域水環境リーダー育成拠点形成」が採択された。

このプログラムは、水や生態などの環境の教育と研究に携わっている流域圏科学研究センター、工学研究科、応用生物科学研究科、連合農学研究科、さらに地域科学研究科を有機的につなぐ組織・分野横断型の流域水環境リーダー育成プログラムを構築し、強力な産官学連携、充実した留学生支援体制などにより、アジア地域の発展途上国が直面する水質・水資源・農業灌漑用水・生態などの極めて深刻である流域水環境分野の問題を多角的な視野で的確に理解し、戦略的な解決策と発生防止策を設計・施行する環境リーダー（国内リーダーと国外リーダー）を育成するものである。

2009年7月の採択決定を受けて、岐阜大学は学長統括のもと、「岐阜大学流域水環境リーダー育成事業形成統括委員会」、「流域水環境リーダー育成プログラム推進室」をそれぞれ設置し、教育プログラムの構築や学生支援など、様々な取り組みを積極的に展開してきた。

学生に提供する教育プログラムは、関連専攻・講座の流域環境関連の既存科目を生かし、専攻を跨って履修できる専門補完科目群、地域社会や環境政策に関連の科目群、発展途上国の流域水環境問題の発生背景に対する理解促進と処理手法の計画に大いに寄与しうる新規共通科目群、現場実践的特別演習、特別研究から編成されており、日本を含むアジア地域からの意欲ある学生が共に学び、環境リーダーとして途上国のニーズに対応した素養養成に大いに寄与した特色あるものである。

2009年10月に、第1期の育成対象者として、大学院修士課程（工学研究科では博士前期課程）に在学している1年生から日本人学生7名と外国人留学生6名を選定し、教育プログラムに従った人材育成を開始した。また、第2期の育成対象者の育成に向け、まず外国人留学生12名（中国6名、インドネシア2名、バングラデシュ2名、カンボジア1名、韓国1名）を多くの志願者から育成対象候補として選定し、うち11名は2009年11月に研究生として受入れた。大学院2次試験の結果を待って、日本人学生も含めて第2期育成対象者全員を近くに決定する。

今後は、養成目標の達成と拠点形成を目指して、学習カリキュラムの改善や学生支援の強化など、更なる努力を重ねる所存である。皆様のご協力を心よりお願いしたい。

流域水環境リーダー育成プログラムにおける養成人数目標

区 分	1年目 (2009年度)		2年目 (2010年度)		3年目 (2011年度)		4年目 (2012年度)		5年目 (2013年度)		6年目以降	
	受入	修了	受入	修了	受入	修了	受入	修了	受入	修了		
修士課程 (2年間)	留 学 生	5	0	12	5	12	12	12	12	10	12	10
	日本人学生	3	0	4	3	4	4	4	4	4	4	4
博士課程 (3年間)	留 学 生	0	0	0	0	3	0	3	0	3	3	6
	日本人学生	0	0	0	0	1	0	1	0	1	1	2



2009年11月26日岐阜大学流域水環境リーダー育成プログラム開設記念国際シンポジウムを開催（森学長開会挨拶）



2009年11月26日岐阜大学流域水環境リーダー育成プログラム開設記念国際シンポジウムを開催（会場の様子）



2009年9月20～27日、杉戸副学長、土肥副学長、藤田センター長、能島専攻長、小林専攻長、李教授により、上海、西安、蘭州の5大学にて大学紹介、専攻紹介、プログラム紹介を実施（蘭州交通大学の会場の様子）

在外研究報告



教育学部（英語教育）准教授

巽 徹

イングランドにおける 小学校外国語教育の現状

本年度、在外研究員派遣の機会をいただき、イングランドにおける小学校の外国語教育について現地調査を行う機会を得た。日本、イングランド両国ともに、2011年に小学校の外国語教育を必修化することが決まっている。そこで、両国が、どのように外国語教育導入の準備を進めているのか、特に「教員の研修と養成」に注目して調査を行った。

その結果、両国とも小学校外国語教育の主な指導者は「担任の教師」としている点は共通していることが分かった。しかし、その取り組みには大きな違いがあることも明らかになった。日本では、現職の全小学校教員を再教育することで外国語の指導者として育成しようとしている。一方、イングランドでは、現職教員に研修の場は提供するものの、任意の研修で強制はされていない。その代わりに、2001年から大学の小学校教員養成課程に外国語を専門とするコースを設置し「外国語指導ができる小学校教員」の養成が開始されている。もちろん、いまだ十分な数の教員が養成されているわけではないが、日本で

は、外国語活動が「教科」ではないということもあり新規の「小学校外国語科教員」の養成はほぼ手付かずの状態である。長い目で小学校の外国語教育を考えると、新規教員の養成は重要であり、早急に取り組むべき課題であろう。

イングランドの同課程は4週間の「海外教育実習」を含むユニークなコースで、同様の課程を持つ大学の数は現在40以上にのぼり、「外国語指導の専門性を持つ小学校教員」の養成は定着したといえる。また、同課程の修了生の指導力の評価は高く「海外教育実習」の成果が十分に見られるという報告もある。今後、本学教育学部でも、ACTプランの新たな展開として「海外教育実習」を含めた小学校教員養成課程における外国語指導力向上策について検討していく必要があるのではないだろうか。



電子黒板を活用したスペイン語の授業



英国教育省外国語教育総責任者の Dr Lid King 氏と

岐阜大学国際交流事業

私費外国人留学生を対象とした奨学金制度

私費外国人留学生学資援助金／奨学金月額3万円、期間1年間 採用人数5人

国際調和クラブ外国人留学生奨学金／理系大学院生を対象とした奨学金制度

奨学金：月額3万5千円、期間1年間 採用人数5人

交換留学(受入)推進制度奨学金／学術交流協定校から受入れる交換留学生を対象とした奨学金

奨学金月額3万円、奨学金付与期間：半年間、採用人数4人：

日本人学生を対象とした海外留学奨学金制度

岐阜大学短期留学(派遣)奨学金

本学と学生交流に関する学術交流協定を締結している外国の大学（(p6協定校一覧参照）へ、短期間留学を希望する学生（外国人留学生を除く。）に対して、経済的支援を行い、外国留学の機会を拡大することにより学生の国際交流意識を高め国際感覚を備えた人材の養成を目的とする。

奨学金：月額5万円（派遣先大学の国によっては月額4万円）

採用人数：3人以内

文部科学省事業「留学生交流支援制度(短期派遣)奨学金」

日本の大学及び大学院が、諸外国の大学との学生交流に関する協定等に基づいて、3か月以上1年以内、当該大学（(p6協定校一覧参照）に学生を派遣する場合、その学生を支援する制度です。従前のJASSO（独立行政法人日本学生支援機構）による短期留学推進制度（派遣）は、平成21年度からは新たな文部科学省事業となり標記名称になりました。応募資格及び条件は従前とほぼ同じです。

奨学金：月額8万円

採用人数：平成21年度実績2人

学術交流協定締結 (平成22.2.1現在)

■大学間協定(38大学) ※印は、授業料等相互不徴収制度のある大学を示す。

大学名	国名(所在地)	大学名	国名(所在地)
※カンピーナス大学	ブラジル サンパウロ州カンピーナス	※バンノン大学	ハンガリー ウェスプレーム
※サンディエゴ州立大学	米国 カリフォルニア州サンディエゴ	※アンダラス大学	インドネシア 西スマトラ州パダン
※浙江大学	中国 浙江省杭州市	※バングラデシュ農業大学	バングラデシュ マイメンシン
※広西大学	中国 広西省南寧市	※エルフルト大学	ドイツ エルフルト
※電子科技大学	中国 四川省成都市	※吉林大学	中国 吉林省長春市
※江南大学	中国 江蘇省無錫市	※チェンマイ大学	タイ チェンマイ
中国医科大学	中国 遼寧省瀋陽市	※ダッカ大学	バングラデシュ ダッカ
※ルンド大学	スウェーデン ルンド	※モンクト王トンプリ工科大学	タイ バンコク
※ノーザンケンタッキー大学	米国 ケンタッキー州ハイランドハイツ	※華僑大学	中国 福建省泉州市
※ソウル産業大学	韓国 ソウル	※同済大学	中国 上海市
※グリフィス大学	オーストラリア クイーンズランド州サウスポート	※ランボン大学	インドネシア ランボン州バンドル・ランボン市
※ユタ大学	米国 ユタ州ソルトレイクシティ	※ポートランド州立大学	アメリカ オレゴン州ポートランド市
※ユタ州立大学	米国 ユタ州ローガン	※内蒙古大学	中国 内モンゴル自治区フフ・ホト市
※ハノイ工科大学	ベトナム ハノイ	※木浦大学	韓国 全南務安郡
※ウェストバージニア大学	米国 ウェストバージニア州モーガントウン	※シバジ大学	インド マハラシュトラ州コラプール
カセサート大学	タイ バンコク	※西南交通大学	中国 四川省成都市
※アバティダンディ大学	連合王国 スコットランド州ダンディ	※バイロイト大学	ドイツ バイロイト
※内蒙古農業大学	中国 内モンゴル自治区フフ・ホト市	※ベンハー大学	エジプト ベンハー
※シドニー工科大学	オーストラリア ニューサウスウェールズ州シドニー	※高麗大学	韓国 ソウル

■部局間協定(13機関) ※印は、授業料等相互不徴収制度のある大学を示す。

大学・学部等名	国名(所在地)	協定部局	大学・学部等名	国名(所在地)	協定部局
チュラロンコン大学理学部	タイ バンコク	応用生物科学部	国立獣医科学検疫院獣医科学研究所	韓国 京畿道安養市	応用生物科学部
コンケン大学農学部	タイ コンケン	応用生物科学部	コロラド州立大学	米国 コロラド州フォートコリンズ	医学部
コンケン大学学部間共同開発研究所	タイ コンケン	応用生物科学部	ガジャマダ大学畜産学部	インドネシア ジョグジャカルタ	応用生物科学部
※浙江大學医学院	中国 浙江省杭州市	医学部	※忠北大学医学部	韓国 忠清北道清州市	医学部
※コンケン大学医学部	タイ コンケン	医学部	中国水利水電科学研究所	中国 北京市	社会資本アセットマネジメント技術研究センター
※国立全南大学校工科大学	韓国 光州市(クアンジュ)	工学部	※ボゴール農業大学獣医学部	インドネシア ボゴール	連合獣医学研究科
※シドニー大学文学部	オーストラリア ニューサウスウェールズ州シドニー	教育学部	※カフ・エル・シェイク大学	エジプト カフ・エル・シェイク	連合創薬医療情報研究科
中国科学院水利部水土保持研究所	中国 陝西省西安市	社会資本アセットマネジメント技術研究センター			

国際交流状況について

1. 岐阜大学外国人研究者受入数

(平成21.12.1現在)

	教育学部	地域科学部	医学部	工学部	応用生物科学部	その他	合計
私費	1(1)	0	0	2(1)	0	1(0)	4(2)
委任経理金・その他	0	0	0	2(0)	13(5)	2(2)	17(7)
合計	1(1)	0	0	4(1)	13(5)	3(2)	21(9)

1か月以上本学に滞在し、岐阜大学外国人研究者受入れ規則に基づき、受入れを承認された外国人研究者をいう。()内は、女子を内数で示す。

2. 岐阜大学外国人研究者などの訪問数(1月未満)(平成20年度)

	教育学部	地域科学部	医学部	工学部	応用生物科学部	その他	合計
合計	6	3	32	19	7	78	145

1. 以外で、本学に短期間滞在した外国人研究者等をいう。

3. 岐阜大学教職員海外渡航者数(平成20年度)

	教育学部	地域科学部	医学部	工学部	応用生物科学部	その他	合計
出張	42	19	102	170	65	84	482
研修	11	2	27	5	8	17	70
合計	53	21	129	175	73	101	552

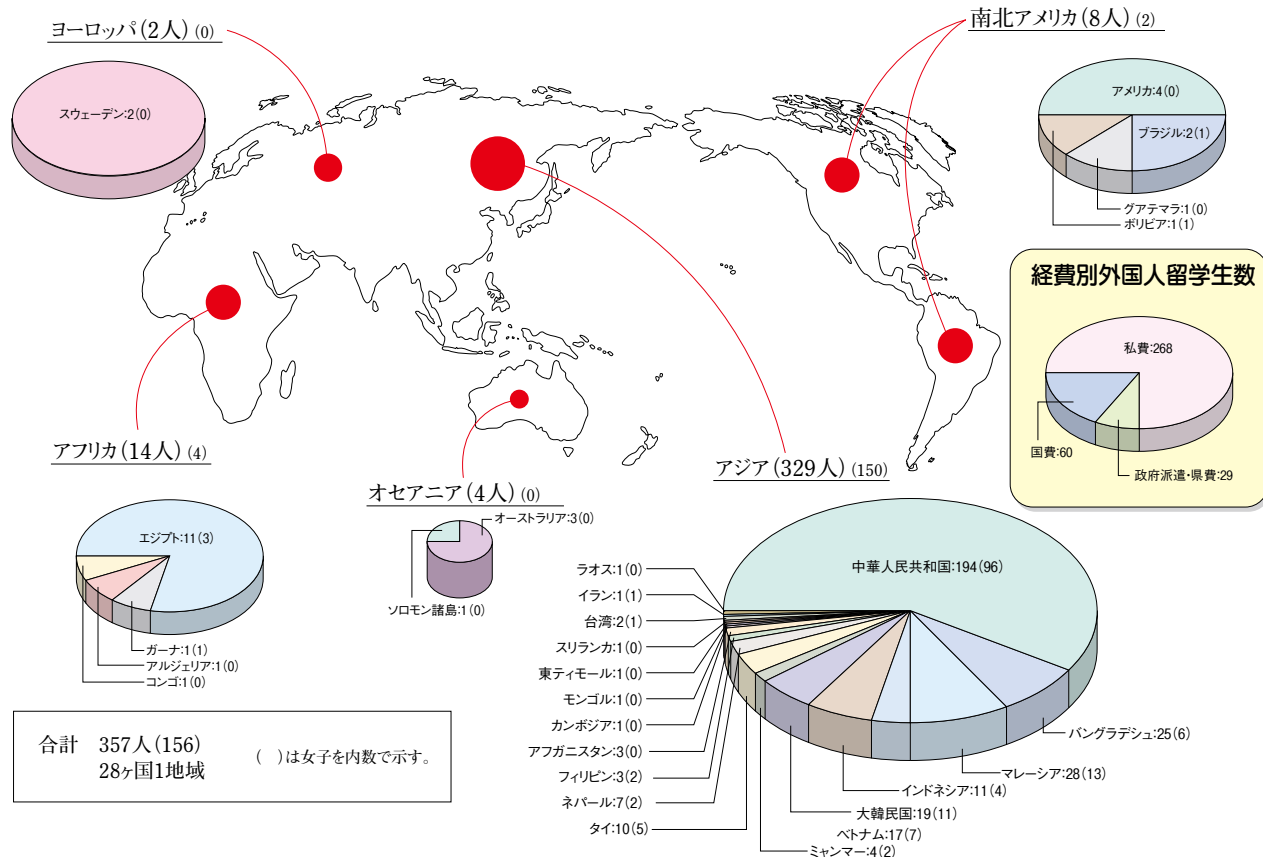
(私事・休職渡航を除く。)

4. 岐阜大学学生の留学者数(平成20年度)

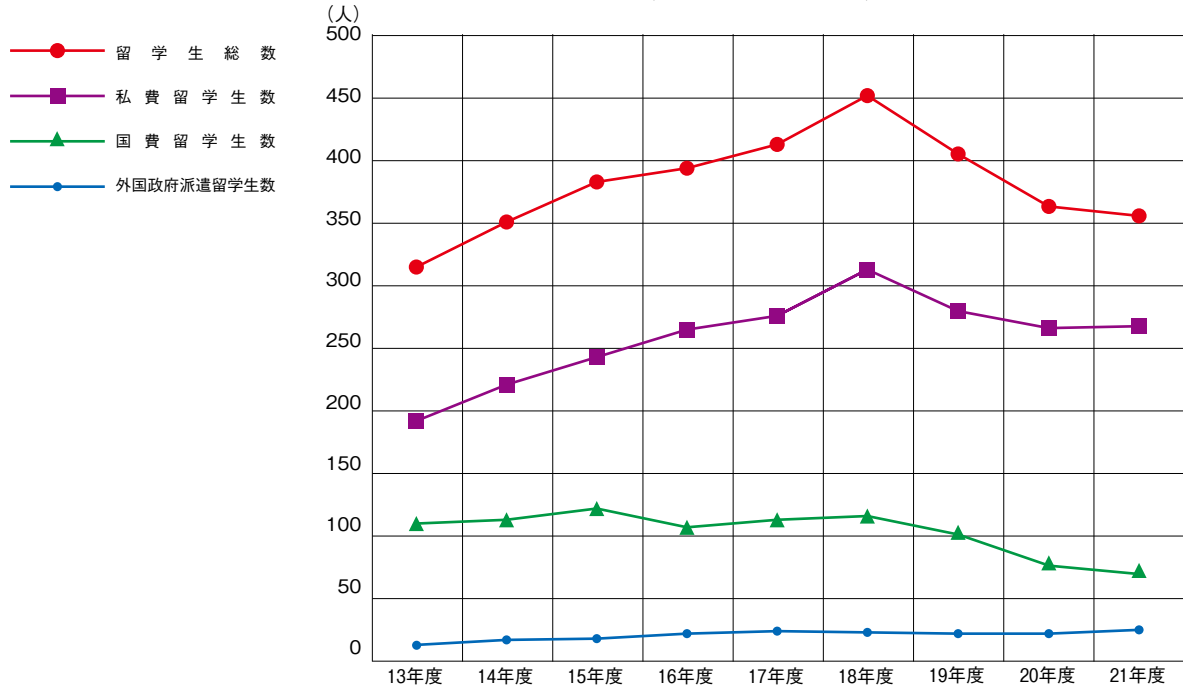
	教育学部 教育学研究科	地域科学部 地域科学研究科	医学部 医学系研究科	工学部 工学研究科	応用生物科学部 応用生物科学研究科	連合農学研究科	連合獣医学研究科	合計
短期留学推進制度 (奨学金受給者)	0	1	0	0	0	0	0	1
岐阜大学奨学金	0	2	0	1	0	0	0	3
私費留学	0	0	0	0	0	0	0	0
サマースクール	1	10	0	6	4	0	0	21
休学による留学 (語学研修等含む) (協定校以外)	2	2	3	9	3	0	0	19
合計	3	15	3	16	7	0	0	44

岐阜大学国別外国人留学生数

(2009年12月1日現在)



外国人留学生受入数(経費別推移表)



留学生総数	315	351	383	394	413	452	405	365	357
私費留学生数	192	221	243	265	276	313	280	265	268
国費留学生数	110	113	122	107	113	116	103	78	60
外国政府派遣留学生数	13	17	18	22	24	23	22	22	29

2008～2009国際交流奨学寄附金協力団体一覧

イビデン株式会社
財団法人井上国際交流基金
エイト工業株式会社
株式会社エヌテック
株式会社大垣共立銀行
河合石灰工業株式会社
岐阜車体工業株式会社
岐阜信用金庫
岐阜乗合自動車株式会社
国際ソロプチミスト岐阜
財団法人国際調和クラブ

サンメッセ株式会社
株式会社十六銀行
株式会社スギヤマメカレト
大日コンサルタント株式会社
太平洋工業株式会社
財団法人田口福寿会
東邦ガス株式会社岐阜営業所
日東興産株式会社北方自動車学校
ハートランス株式会社
三田洞自動車学校

5頁に掲載の事業は上記の企業・団体からのご寄附により賄われております。誌上を借りて、厚くお礼申し上げます。(50音順、敬称略)
そのほか、岐阜ソングクラブ、岐阜西ロータリークラブ、岐阜東ロータリークラブ、郡上八幡国際友好協会及び国際交流の輪の黒野の各団体には側面から留学生をサポートいただいております。誌上を借りて厚くお礼申し上げます。(50音順、敬称略)

寄附金企業・団体への感謝状贈呈

平成21年6月1日(月)に、本学講堂において、学生、卒業生、教職員など約400人の出席のもと、岐阜大学60周年創立記念日行事が行われました。その中で、本学の諸事業に多大なご支援をいただいている5つの会社・財団・団体様に、森学長から感謝状と記念品を贈呈し、出席者全員が盛大な拍手で感謝の意をお伝えしました。

- ・株式会社十六銀行取締役頭取 小島伸夫氏
- ・財団法人田口福寿会会長 田口義嘉壽氏
- ・岐阜車体工業株式会社代表取締役社長 中谷克彦氏
- ・財団法人国際調和クラブ理事長 青山 馥氏
- ・郡上八幡国際友好協会事務局会長 鷲見幸彦氏



岐阜大学基金（国際交流事業）のご協力とお願い

岐阜大学における国際交流を充実・発展させるために、岐阜大学基金（国際交流事業）へのご寄附をお願いいたします。

【岐阜大学基金HP】<http://www.gifu-u.ac.jp/view.rbz?cd=1012>

本学への寄附金は、所得税法第78条第2項第2号及び法人税法第37条第3項第2号に基づき、財務大臣が指定した寄附金（昭和40年4月30日大蔵省告示154号）に該当するもので、所得税法上の寄附金控除の対象となる特定寄附金または法人税法上金額損金算入を認められる指定寄附金として財務大臣から指定されています。また、相続、遺贈により財産を取得し、申告期限までに本学に寄贈された場合は、租税特別措置法第70条第1項により、相続税は非課税になっています。

編集者／国際戦略本部国際広報部会：鈴木 徹（大学院連合農学研究科）、ジル、ゲラン（地域科学部）、永田 知里（医学部）、李 富生（流域圏科学研究センター）

事務局／若宮広和（国際企画課）、渡邊昭彦（国際企画課留学生支援室）

学術情報部国際企画課

TEL：058-293-2196・3350 FAX：058-293-3209 E-mail：int_exch@gifu-u.ac.jp

国際企画課（留学生支援室）

TEL：058-293-2139・2137 FAX：058-293-2143 E-mail：direcent@gifu-u.ac.jp

本誌は、岐阜大学ホームページ上で公開されています。(http://www.gifu-u.ac.jp/view.rbz?nd=32&of=1&ik=1&pnp=32&cd257)